

審議会会議録

1	会議の名称	平成30年度第2回富津市子ども・子育て会議
2	開催日時	平成30年9月18日（火） 午後1時30分～午後2時57分
3	開催場所	富津市役所504会議室
4	審議等事項	(1) 子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査 について
5	出席者名	○出席委員 三木照恵、渡邊彩佳、石井愛子、梅原 淳、 諏訪智子、榎本信弘、君塚善恵、オノミチ三由 紀、畠山智宏、平野英男、河野信成 ○事務局 島津健康福祉部長、木村子育て支援課長、中山 子育て支援課長補佐、小柴保育係長、川名社会 福祉主事、圓川健康づくり課主査、川崎学校教 育課指導主事
6	公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	0人（定員5人）
9	所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0439-80-1256
10	会議録（発言の内容）	別紙のとおり

上記会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するためにここに署名する。

平成 年 月 日

会議録署名委員

会議録署名委員

平成 30 年度第 2 回富津市子ども・子育て会議 会議録

発言者	発言内容
事務局：中山	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認 資料 1：富津市子ども・子育て支援事業計画第Ⅱ期策定に係るニーズ調査の実施について 資料 2：富津市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査票就学前児童の保護者対象【案 5】 資料 3：富津市子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査票小学生の保護者対象【案 5】 ・会議の成立 本日、11 名委員が出席しており過半数を超え、子ども・子育て会議設置条例第 6 条第 2 項の規定により、会議は成立する旨報告。 ・会議の公開 この会議は、富津市情報公開条例第 23 条の規定により公開 傍聴人は 0 名 ・同席者の報告 ニーズ調査受託事業者株式会社ぎょうせいの主任研究員楠元様、営業責任者の酒井様の 2 名が同席している。 <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p>
平野会長	<p>大変お忙しいところ、今年度 2 回目の富津市子ども・子育て会議にお集まり賜り、感謝します。</p> <p>今日の会議の意味合いについて説明したい。</p>

来月に10月に実施されるアンケート調査の詳細な中身を詰めることになる。平成32年度春に第2期計画に改定するための指針とさせていただく。

市は政策として「子育てしやすいまち日本一の実現」を掲げている。看板、絵空事ではなく、具体的に進めるためには子育て世代の生活実態を正確に把握する必要がある。現時点で把握していない新規ニーズを発見したい。既に取り組んでいる事業を効率的に改善していく根拠数字をはっきりさせたいと思っている。

ご存知のように人口が継続的に減少していく人口減少社会は2008年から始まっている。地方に様々な悪い意味での影響を及ぼしている。超高齢社会は若年層の弱体化を招き、あるとあらゆるリスクの発生が予想される。厳しい状況の中で子どもたちに対し、どのような政策を実施し、いかに若者に活力を与えていくか、超重要課題だ。

8月1日に市役所で淑徳大学の松浦先生の、「困り感を持つ子供に対する関わり方」をテーマにした講演会があった。子供は自分のことをうまくしゃべれず、自分の困りごとを周囲に打ち明けられないと子どもの心情を説明していた。その上で子どもの困り感を見抜いて解消するのは、周りの大人の役割で、早期発見、早期解決が大事。ここにいる皆さんには釈迦に説法かもしれないが、とにかく、来月実施するアンケート調査は子どもの困り感発見、子育て世代、親の困り感発見には非常に有効な調査となる。

32年度春に第2期計画をより実効性あるものに、具体性のあるものにするには非常に重要な調査となる。今回の調査から子育て世代の実態を正確に把握し、我々が現時点で把握していない新規事業のニーズを発

	<p>見したい。既存事業の効率的に改善する根拠となる数 字的裏付けを明確にしたいと思っている。</p> <p>子育て世代の満足度を上げるような計画を策定し、 実施できれば、必ず、現在定住している市民の皆さん がこれからも住み続けたいと思ってくれる。初めて富 津市を訪れた方が富津市に住んでみたいと感じてくれ るはず。このようなことから、子育て世代の定住促進、 移住促進が一層進めば、第1回会議で言ったが、現在 高齢者に偏り過ぎているいびつな人口構造を、じわじ わだが必ず改善できることになる。</p> <p>皆さん方のお知恵を借りて、明日の富津市を担う子 どもたちが笑顔であふれるよう、まちづくりをしてい きたと思う。</p> <p><会議録署名人の指名></p> <p>私のほか、畠山委員にお願いする。</p> <p>3 議題</p> <p><(1) 子ども・子育て支援事業計画第Ⅱ期に係るニ ーズ調査の実施について></p>
平野会長	<p>(1) 子ども・子育て支援事業計画第Ⅱ期に係るニ ーズ調査の実施について、事務局の説明を求めます。</p> <p>《資料1・2・3を基に説明》</p>
事務局：木村課長	<p>まず、「富津市子ども・子育て支援事業計画第Ⅱ期策 定に係るニーズ調査の実施について」をご覧ください。</p> <p>1. 調査趣旨</p> <p>第2期計画策定の基礎となる、「幼稚園や保育所・保 育園・認定こども園及び各種子育て支援事業」の「量 の見込み」所謂「ニーズ量」を把握するため、子どもの 保護者を対象に「ニーズ調査」を実施するもの。どれ</p>

だけ保育所や幼稚園に入所希望があるか、各種子育て支援事業に対し、どれだけ利用したいという意向があるか調べるもの。

2. 調査の内容

(1) 前提

子ども・子育て新制度のスタートに併せて、市町村子ども・子育て支援事業計画の策定が法制化された際に、内閣府から示された「市町村子ども・子育て支援事業計画における『量の見込み』の算出等のための手引き」及び今回第Ⅱ期計画策定に際し示された「第二期市町村子ども・子育て支援事業計画における『量の見込み』の算出等の考え方」の内容を踏まえ、調査を実施する。

(2) 調査対象

対象者は、就学前児童が属する世帯及び小学生が属する世帯。配付数は、就学前児童が属する世帯がおおよそ 1,700 件、小学生が属する世帯がおおよそ 1,800 件。配付数を当初、就学前児童が属する世帯及び小学生が属する世帯ともに、住民基本台帳から無作為抽出により 1,000 件ずつで行いたいと第 1 回会議では説明したところだが、「調査対象とする全ての保護者から、子育てに対する声を聴く必要があるのではないか」とのご意見をいただき、事務局、市長とも再度検討した結果、全数調査を実施することになった。合計で 3,500 件を予定している。

(3) 調査方法

無記名アンケートで実施する。

就学前児童が属する世帯は郵送による配付及び回収をし、小学生が属する世帯は市内の小学校を通じて配付及び回収する予定。校長会でも説明し、承知して頂

いた。

(4) 調査時期

アンケート調査票発送日が平成30年10月18日(木)の予定。回答の投かん締切日が平成30年10月31日(水)で、最終回収締切日を平成30年11月6日(火)で予定している。学校を通じて回収するものも同じ日程。

3. 調査後のスケジュール

11月回収後、調査結果集計作業を開始し、12月末までには集計結果の速報の報告をとりまとめ、翌年2月末に調査結果報告書の納品。3月に子ども・子育て会議及び市議会へ報告し、3月末に、調査結果報告書の公表を予定している。

次に、2枚目の「富津市子ども・子育て支援事業計画(第Ⅱ期)ニーズ調査実施スケジュール概要」の説明をする。

業務を10項目に分けたスケジュールを記載しているとおり、今後業務を進めていく。後ほどご覧いただきたい。

次に、「就学前児童の保護者対象のアンケート調査票案5」と、「小学生の保護者対象のアンケート調査票案5」の概要を説明する。

内閣府が示す調査票の標準仕様を元に、富津市独自の設問を設定し、作成したもの。

「就学前児童の保護者対象のアンケート調査票案5」から説明する。

表紙の左上部に凡例を掲載している。3ページから設問が始まるが、設問番号の左側に「必」と記載している設問は国の必須設問、「任」と記載している設問は

国の任意設問、「独」と記載している設問が富津市独自の設問。丸案と記載されているものはぎょうせいから提案されている記載例となっている。これらの凡例は会議などに使用する説明用なので、保護者に送付する際には削除する。

3 ページと 4 ページは基本的な家族の状況を、5 ページは子育て情報の入手先や子育てに対する気持ちを、6 ページから 10 ページに保護者の就労状況に関する設問を設定している。特に 8 ページの間 18 から 10 ページの間 23 までが「子どもの貧困」に関する設問となっている。子どもの貧困問題、貧困対策を国も問題視し、いろいろ取り上げられている。本市においても、とりわけ「貧困」をクローズアップして取り組んでいるわけではないが、月 1 回有志による「こども食堂」が中央公民館で開催されている。地域の子育て世帯や地域の方がそこに集まり、交流を深めながら、地域社会・コミュニティを維持していこうという趣旨もあるが、取り組まれている。

11 ページから 13 ページに幼稚園や保育所、認定こども園の利用状況や利用希望を聞き、14 ページから 23 ページでは各種子育て支援事業の利用状況や利用希望を聞いている。

24 ページでは育児休業の取得状況を伺う。男性の育児休業取得率が低い状況で、国も取得促進を呼びかけているので、市内の男性の状況も把握したいという考え。

25 ページと 26 ページには児童虐待に対する認識や意識を伺う。児童虐待は大変社会問題になっている。本市は近隣市と比べて発生件数は低い。潜在的な意識や認識が、児童虐待対応の早期発見、早期対応に大き

<p>平野会長</p>	<p>く影響するため、調査を実施し、取り組んでいく。</p> <p>そして最後 27 ページに自由記述を設定し、全 48 問となっている。</p> <p>「小学生の保護者対象のアンケート調査票 案 5」は、基本的には就学前の保護者のアンケートと同じだが、保護者の就労状況のほか、放課後の過ごし方に関して主に聞くほか、子どもの貧困や児童虐待に係る設問を含め、13 ページ・全 35 問となっている。</p> <p>就学前児童の調査票と大きく異なる点は、幼稚園や保育所の利用希望とか、一時保育、子育て支援センターの利用、延長保育の利用等の調査項目がない。</p> <p>既に目を通されていると思う。順に一人一人から意見を伺いたい。</p> <p>具体的に何ページの設問番号と意見と、そう考えた理由を述べてほしい。事務局の考え等を聴きたい場合は質問してほしい。</p> <p>三木委員から順にお願いする。</p>
<p>三木委員</p>	<p>○就学前 15 ページ問 31、私自身が 9 年間お世話になって 3 人の子育てをした経験から、子育て支援センターに対するニーズ、選択肢が物足りないと感じた。母親はある程度教育される必要があると私は考えているので、選択肢を追加してほしい。例えば、しかり方やけんかした時の距離の取り方、発熱時の対応など。また、きょうだいがいて、家で困っていることを助けてほしい。上の子と外遊びしているとき下の子を見てほしいとか。絵本やおもちゃは最低限あればよい。</p> <p>○就学前 14 ページ問 29、「子育て支援センターを利用しているか」の問いだが、就園している子の該当する</p>

	<p>選択肢がない。過去利用したことがあるかを追加しては。平日幼稚園に行っているから、休日にしか利用できないが、市には休日ややっているところはないので市外を利用しているとか。対象が違うのか。</p> <p>○就学前 20 ページ問 38-1、一時預かりの利用を聞いているが、現状市では保育士が足りず対応しきれていない。選択肢に「利用したかったが断られた」を追加してほしい。</p> <p>○就学前の全体、例えば平日の夕方や休日、どこを利用するか、どのように過ごしているか、困る曜日、困る時間帯を聞くとニーズが浮かび上がるのではないか。</p> <p>○就学前 8 ページ問 18, 19 は合わせてはどうか。年収は調べないと分からない。アンケートで調べないと分からないものが 1 つでもあると回収率に響くと思う。感覚的に答えられるものしてはどうか。問 19 や問 20 で補完できるのであれば、意味合いによるが削ってもいいのではないか。</p> <p>アンケートは答える側の身になって作ってほしい。設問が多いと、答えるのがつらく、出さなくなる。削れる、簡潔にできるものはまとめた方が、答える側は良い。国の必須設問が割と多いので、このボリュームになるのかと感じた。答えやすい内容に出来たらよいと感じた。</p>
<p>渡辺委員</p> <p>石井委員</p>	<p>○就学前 8 ページ問 17-3、現在働いていない理由を聞いているが、休日や長期休業中の子どもの預け先がないという声を周りで耳にするので、追加してはどうか。</p> <p>○就学前 14 ページ問 28、子育て支援センターを利用したことが有る人はピンと来るが、利用したことのない人は分からないと思った。具体的にどこで実施して</p>

	<p>いるのかを追加してはどうか。</p> <p>○就学前 16 ページ問 33、同様に子どもの遊び場や児童遊園もどこのことか載せてはどうか。私自身も分からなかった。市のホームページを見て確認できた。どこのことか分からないと、利用したことが有る人でも「利用したことがない」を選んでしまうのではないか。</p> <p>○就学前 18 ページ問 37、病後児保育もどこでやっているのか追加してほしい。アンケートを見ることで、どこでやっているのか情報を得ることができると思う。</p> <p>○就学前 26 ページ問 47、充実を希望する子育て支援メニューに「図書館の充実」を追加してほしい。公民館の図書館（室）は良く利用するが、周りの人は君津の図書館は充実しているという声をよく耳にするので聞いてはどうか。</p> <p>○全体、アンケートという「出さなくてもいいか」という人も多い。小学生は小学校を通してアンケートをやっているんだと知ると、就学前の保護者も「出した方がいいかな」と思う。</p>
梅原委員	<p>○家族の状況に、親が富津の生まれ、生まれたところに住んでいるのか、最近転入してきたのか、地域との関わりを聞いてはどうか。</p> <p>○親の就労状況、市内で仕事をしているかを聞く。</p> <p>○地域の子育て支援策として、可能であれば近隣 3 市の図書館などの施設を利用するか、聞いてもよいと思う。</p>
河野委員	<p>○例えばきょうだい 4 人 5 人いる家庭もある。1 人 1 部となると、「えー」となる。1 世帯につき 1 部で良いとなれば、そうしてあげた方がよい。</p> <p>○設問が多い。精選できるのであればと思った。</p>

<p>畠山委員</p>	<p>○使命感を持って見ても「うっ」となった。だんだん疲れた。回収率を50%としているが、妥当なのか。回収率を向上させるためにどうしたらよいか。回収の方法として、園で回収するのも一つの方法。</p> <p>○聞きたいことが有るのは分かる。ボリュームが多い。盛り込み過ぎると、こぼれるものもある。バランスをとっては。</p> <p>○就学前8ページ問17-3、就労状況を聞いているが、選択肢に相手側の都合だけでないもの、「条件が合わない」を入れてもよいのでは。</p> <p>○就学前12ページ問24-5、市外の保育事業や教育事業の利用希望を聞いているが、外に流れていってしまう原因を探る設問を。ヒントが有るのではないか。</p> <p>○就学前25ページ問46、「虐待を通告したことが有るか」と「見聞きしたことが有るが通告しなかった」を一緒に聞いている。違和感がある。通告したと通告しなかったには大きな違いがある。なぜ通告しなかったのか、理由を聞いてはどうか。</p>
<p>君塚委員</p>	<p>○幼稚園でも4人きょうだいとか最近はある。1家庭に何冊もアンケートが行く。忙しい家庭に厚いアンケートが4冊も行けば、どっから書こうか、後で、棚に置いたら回収できない。うまくまとめられないか。</p> <p>○今は子どもが市外に住んでいても、アンケートが手元に行けば、富津市にはこんな子育て支援があると気付きにもなる。対象の子どもがいなくても、子どもを呼び寄せる視野でアンケートを作ってみては。</p> <p>○対象でも高学年の子は、計画実施の時期になれば中学生になって、計画が該当しないこともある。吟味しては。</p> <p>○外国籍の子どもが増え、園で手紙を出すにも韓国語・</p>

榎本委員	<p>ベトナム語・スペイン語等々、苦勞している。支援を必要としている家庭には外国籍の方が多い。外国籍の方も答えられる工夫を。裾野を広げる。目線を変える。ロコミはすごくある。富津市ではこんなことをしている、子育てしやすい、住んでみようと思うので良い。</p> <p>○就学前 9 ページ問 20 ページ、経済的なことを聞きたいのだろうが、ここまでしなくていいのではと思った。例えば、子育てが苦しい、こういう支援があったら学費が払えるとか。集計も大変ではないかと思った。</p> <p>○非常に細かいと感じた。不便に思っていることを付け足せばよいのではないか。</p> <p>○就学前 16 ページ問 34、私が実感していることは、小さなお子さんの水遊び場がないことだ。例えば、何回か塩山市（現・甲州市）の塩山公園に遊びに寄ったことがある。この公園にはひょうたん池があり、噴水が噴き出ている、浅く、衛生管理もされている。近くの親子連れのたまり場。富津市にもそういった親子で水遊びができる場所があるといいと思った。</p> <p>○公園ごとに持っている機能を差し支えなければ、載せてもいいのではないかと思った。</p>
諏訪委員	<p>○就学前の 5 ページ問 12、子育ての情報の入手先の例示として子育て支援センターがある。富津地区や大貫地区の人は身近だが、天羽地区の人は「なんのこっちゃ」と思う。24 ページ問 14 になって、初めて子育て支援センターとはと説明が出てくる。初めて子育て支援センターという言葉が出てくる箇所に説明を入れた方が保護者は分かると思う。</p> <p>○就学前 13 ページ問 27、分からなかった。どのように保護者は答えるのか、考えさせられた。</p> <p>○小学生 6 ページ問 18、教育・保育費で何が負担か聞</p>

<p>オノミチ副会長</p>	<p>いているが、小学生対象なので保育費は無くてもよい。</p> <p>○これだけの質問があるのは、市もたくさん考えたのだろう。独自の質問もしっかり設問されていると感じた。</p> <p>○貧困に関して、込み入ったことを聞いていると感じる。きょうだいは何人かとか、下の子どもの生まれ月まで聞かれると、子どもの人数も少ないので組み合わせると自分の家の状況が分かってしまうと思う人もいると思う。配慮をすると、ちゃんと回答してくれると感じた。</p> <p>○自分には保育園から中学生までの子どもがいる。それぞれにそれぞれの葛藤がある。中学生までを対象にしたアンケート調査があるとよいと思った。</p> <p>○保護者自身が、自分たちの住んでいる街をもっと良くしていきたいと思って協力することが大事。アンケートはどれも大事な項目。削っていくものはないと感じた。</p>
<p>平野会長</p>	<p>○これまでいろいろ意見したことが反映されている。</p> <p>○保護者の視点、現場の視点で意見をいただいたが、自分は少し違った視点。他市のアンケート調査と比較すると、なるほどと思うものもあった。</p> <p>○小学生3ページ間9、気軽に相談できる人はいるかと聞いている。就学前でも同じことを聞き、いない人にはどこから情報を得ているか聞いているが、小学生にはないことが気になった。</p> <p>○「虐待を見聞きしたことがあるか」と聞いているが、前提として無記名のアンケートなのだから、率直に聞いては。「虐待したことが有るか」とダイレクトに聞いてはどうか。</p> <p>○他市との比較で、健康面、食生活面等聞いていると</p>

<p>事務局：木村課長</p>	<p>ころもある。興味深い。週に何日朝食を食べているのか、野菜がどのくらい摂れているのか推し量る。</p> <p>○保護者や子どもの病気の状況も聞いているところもある。</p> <p>○就学前、小学生、中学生と抱えている問題は違う。中学生の保護者に対する質問があるとよいと思った。</p> <p>ここまで、委員に皆さんが感じたことをかなり発表していただいた。皆さんの意見を聞いて事務局はどうか。</p> <p>お一人お一人から丁寧に意見をいただいた。</p> <p>内部での打ち合わせの中でも、一人の保護者に対し何通もアンケートが行くのかという意見はあった。保護者は一人でも、対象となる子ども一人一人、状況も年齢も個性も違う。それによって、お子さんが一人一人に対して親が思うニーズが異なるのではないかという意見もあった。全数調査にした意味が正にそこにある。想定の中に含め実施させていただきたい。調査票の表紙にも理解をお願いする一文を入れた。</p> <p>ボリュームについては、この計画の根拠は子ども・子育て支援法にあり、その法律で計画に盛り込むべきことが規定されている。想定される質問を国が決めており、必須となっている。任意の設問は、聞いても聞かなくてもよいが、必須に関係する設問で、もう一歩進んだニーズを聞きたいときには必要となるもの。独自の設問は社会問題となっているもの。虐待対応や子どもの貧困対応など。計画にはどこまで何をするのかは盛り込めないが、現状と傾向、それに対してどのような対策を考えなければいけないのか、位置付けたいと考え、設問を盛り込んでいる。</p>
-----------------	--

<p>平野会長</p>	<p>今回いただいた意見によって圧縮できるところ、場合によっては設問自体の視点を変えるような検討もする。子育て支援センターや子どものあそび場の場所や名称など、受け取った保護者が分かりやすくなる改善は取り入れたい。内容は今後検討し、何かしらの形で示す。</p> <p>全員から発言、ご意見があった。踏まえて改めて確認、質問はあるか。</p> <p>本来ならアンケート調査票発送前に会議として集まればいいのだが、10月18日の発送を計画しているので、最終的には市とぎょうせいとで判断となる。もし何かあれば、私か事務局に問い合わせ確認していただければと思う。</p> <p>では事務局で意見の内容と修正箇所、修正しない場合はその理由等をまとめていただき、決定したアンケート調査票とともに、委員の皆様方に送付させていただくので、よろしく願います。</p>
<p>平野会長</p>	<p>< (4) その他 ></p> <p>以上で本日の議題は終了したが、委員の皆さんから何かあるか。</p>
<p>オノミチ副会長</p>	<p>提案がある。毎年恒例の11月に開催される富津市民文化祭のプログラムとして、富津公民館で「子どもまつり」が開催される。ここに前子ども・子育て会議委員有志で、平成28年度から「育LABO」として参加していた。子育て世代の保護者がどんなことを思っているのか聞きたいということで始めた。いただいた声もまとめ、子ども・子育て会議に報告し、会議資料として市のホームページで公表されている。このよう市民の実際の声を聞くのは有ってもよいと思っている。一緒</p>

<p>平野会長 オノミチ副会長</p>	<p>にやっていただけかお声がけしたい。今年度も実施したい。</p> <p>今、配られたのは以前のチラシ。今年度の日程は。11月4日の10時から15時まで、富津公民館で開催。去年はビンゴ大会をやり、賑わった。子どもについて来た保護者に委員が聞き取りをした。</p>
<p>三木委員 オノミチ副会長</p>	<p>前回の委員さんは、今年度は参加しないのか。</p> <p>実行委員会にお声がけしたようだが、既に会議委員を卒業されて、集まることも難しいようで参加しない。受け継いでいきたいと思ったので、今回提案した。</p>
<p>平野会長</p>	<p>以前の委員さんたちがいろいろアンケートをとったものを受け取った。アンケート結果を見ると気づきがあって、議員活動の参考にもさせていただいた。すごく有効。あくまでも任意でやらせていただくもの。この会としてやりますというものではないが、やってみようという方がいればいいと思う。</p> <p>協力させていただく。</p> <p>参加していただける方は会議終了後申し出てほしい。</p> <p>他の委員の皆さんから何かあるか。</p> <p>無ければ事務局からあるか。</p>
<p>事務局：中山</p>	<p>本日いただいた意見は早急に取りまとめ、調査票と合わせお送りする。</p> <p>次回の会議日程は、実際にアンケート調査実施後、結果を取りまとめたのち、今年度中に開催の予定。改め通知する。</p>
<p>平野会長</p>	<p>会議日程はすべて終了した。以上で閉会とする。</p> <p>午後2時57分 閉会</p>